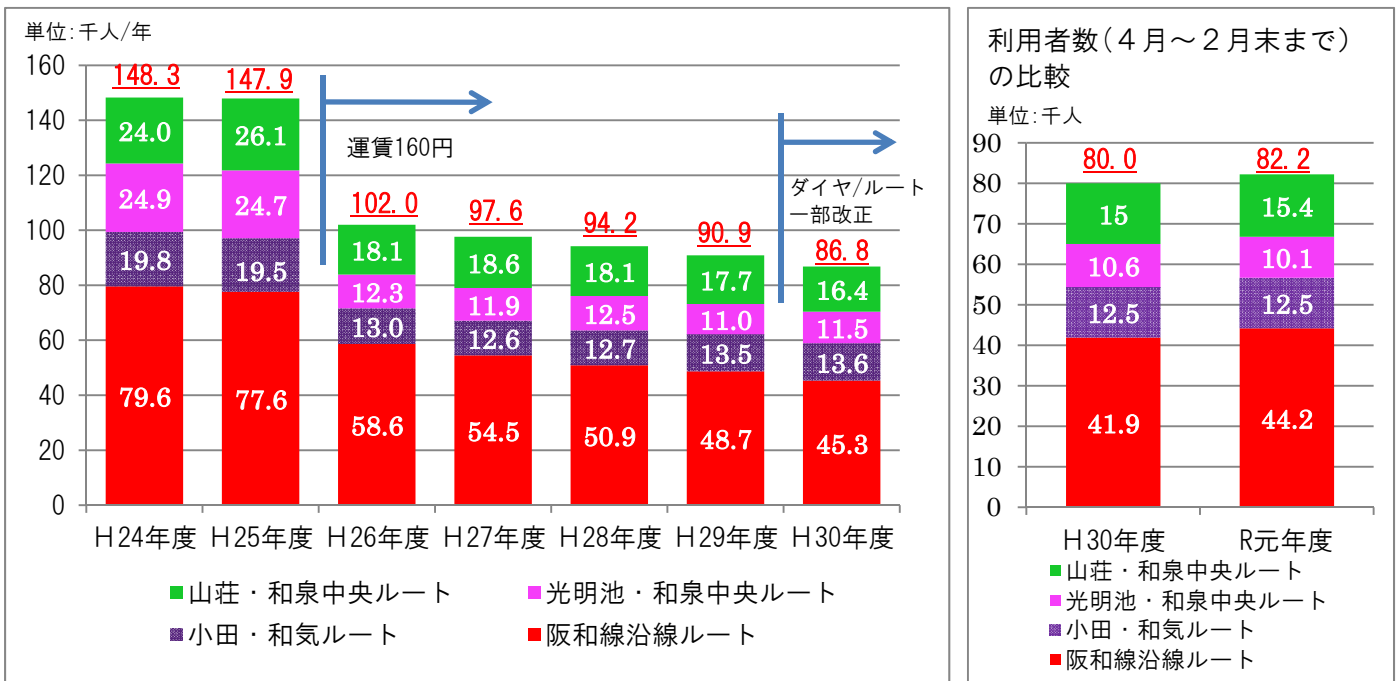


コミュニティバスの今後の取り組みについて

1. 「めぐ〜る」の運行状況

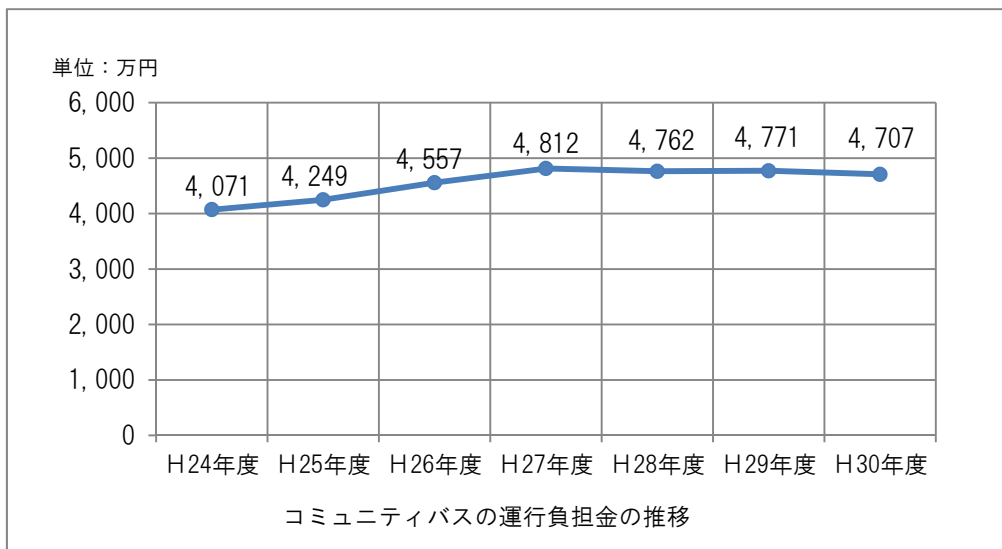
現在、「めぐ〜る」は交通空白地域と拠点施設を結び、鉄道及び一般路線バスを補完する生活交通として市内4コースを運行しています。しかし、総利用者数は年々減少傾向にあり、平成24年度は約14.8万人でしたが、平成26年度の運賃見直しに伴い、利用が減少し、平成28年度は約9.4万人となっています。なお、台風21号(9月)で甚大な被害があった平成30年度では、広域停電などにより交通網が麻痺した影響から約8.6万人となっています。

ダイヤ・ルートの一部を改正した平成30年度と令和元年度の4月から2月末までの利用者数を比較すると、これまで減少傾向にあった利用者数から横ばいもしくは微増で推移しています。



2. 「めぐ〜る」運行の財政状況

平成19年度における本市が負担する運行負担金は約2,612万円と最も少なくなってきましたが、その後増加に転じ、平成29年度には約4,771万円、平成30年度は、約4,707万円となっています。



3. 運行見直しの必要性

年々、コミュニティバスの利用者が減少し、また、運行経費が増加する中、利用促進と利便性の向上を図ることを目的として、平成 29 年度に乗降調査等の利用動向を整理し、本委員会による審議を重ねて平成 30 年 4 月からルートの一部を改正しています。

今年度、2 月末時点の総利用者数は昨年度を上回っており、減少傾向からの脱却が見込まれます。このことから地域生活へさらに定着するよう現行のコミュニティバス沿線住民に対するモビリティ・マネジメント (MM) を実施していく必要があります。

今後の運行の見直しにあたっては、地域特性や現状等のほか、車両の減価償却や乗務員不足などの運行体制も踏まえつつ、市全体の交通ネットワークを視野に入れて運行サービスを持続的に提供できる見直しが必要となります。



4. 今後の取り組み

地域住民に対するMMの実施（予定）

- 対象地域 : コミュニティバス利用状況を踏まえて各ルートの 2 地区程度を抽出
- 配布物 : 公共交通のメリット、又は、かしこいクルマの使い方を記載した小冊子
(次年度作成予定)
- 配布方法 : 町会・自治会を通じて配布
- 配布計画 : 令和 2 年度 2 ルート（小田・和気及び光明池・和泉中央）沿線
令和 3 年度 2 ルート（阪和線沿線及び山荘・和泉中央）沿線